あとがき

本書は、一九九五年上半期、「西日本新聞」に連載した「女のかたち・歌のかたち」を中心に、短歌を作らない一般読者にも気楽に読んでもらえるような女性の歌鑑賞を集めた。一九九〇年代半ばまでに刊行された歌集の歌が中心になるが、そればかりでなく二〇世紀全般にわたる百年の女性の嘆きやよろこびの全容がたどれるように構成、若干加筆訂正した。

九〇年代半ばあたりからバックラッシュが始まったが、二〇二三年日本のジェンダー・ギャップ指数は、一四六ヶ国中一二五位という過去最低の順位である。残念に思いつつ、しかし本書はフェミニズム的な側面ばかりでなく、女の経験の総体を自分の身体で濾過させるようにして書いたものを集めた。本書のどの一首もわたしにはいとおしい。

近年、女性歌人による女性短歌の評論や研究はすすんでいる。もし関心をもつ歌人があったなら、ぜひ個々の評論・研究をも読みすすんでみていただきたい。

短歌は、読み慣れない人には漢字が読めないという苦情をしばしば聞く。それでは残念なので、「女のかたち・歌のかたち」掲出歌については巻末に一覧を付して、ルビをできるだけ多くつけた。歌のしらべから伝わってくるものをぜひ聴き取っていただきたい。

本書の刊行にあたっては、短歌研究社の国兼秀二氏、担当の菊池〇〇さんにたいへんお世話になった。記して感謝申し上げます。

二〇二三年五月二十五日

阿木津　英